

# 緑の相談所だより

-第55号-

冬号 1998. 12. 1発行 編集：旭川市緑の相談所

## シクラメン

よい株のえらび方

花数が多く株の中心から咲いている。

葉の大きさがそろっている

鉢土の上に球根の肩(球径の1/3~1/2)が出ている。



葉数が多いよくしまっている

枯葉や病葉がなく害虫がついていない

- ◇花がらを摘む…咲き終わった花茎をはさんでひねりながら引き抜く。
- ◇葉組みをする…株の中心の葉を外側に軽く引っ張り中心に光が入るようにする。

### 置き場所

できるだけ窓辺など明るい所。日中も15℃をこえないやや寒い所へ。

### 水やり

鉢土が乾いたら鉢底から流れ出るまで水をやる。

### 肥料

液体肥料(1000倍)を10日に1回与える

# 紅白の水引を使ったお正月飾り



材料/水引 ナンテンの葉と実 マツボックリ

①紅白の水引で、三つ編みを作ります。  
 ②①を丸めて輪を作り、端を七〜八センチ残し、ばらしておきます。③下のままとめた部分に、ナンテンの葉と実を飾ります。④最後にマツボックリを飾って仕上げます。

根の代役になる茎の切り口が乾燥したり、またその導管がバクテリアや気泡、切り口から分泌される乳液によって塞がれるのが、花が萎れる第一の理由。

それを改善して吸水状態をよくすることを水揚げといいます。

新しい切り口を作って吸水面積を広げる方法と、熱を加えることで切り口を滅菌する方法などがあります。

花を長く楽しむための水揚げの方法

## ●水切り

たっぷりと水を入れた深い容器の中で、茎の先端から2cm位のところをよく切れるハサミで斜めにカットする。



## ●割る

枝ものは、吸水面積を広くするため、根元を十字に割る。



## ●焼く

新しく切り口を作った茎の先端を炭状に焼き、すばやく冷水につけてしばらくおく。



# 冬の鉢物管理

(異常の診断と処置)

昼夜暖かく明るい居間、この頃の家は植物にとっても住みよい環境が整い、寒い冬でも育て、楽しむことができる植物（鉢物）の種類も豊富になりました。

それぞれ性質の異なる植物を同じ環境で管理するということには、それなりの難しさや苦勞はありますが、植物は育つ環境に異常が生じた場合共通して何らかの信号を発しますので、この信号を早めに察知しこの原因を取り除いてやるのが上手な管理のコツとも言えます。

## ◎ 葉の異常

- ・葉の色が異常（黄変、薄い、濃い）  
光線不足、枝葉の混み過ぎ、肥料の過不足、害虫（ダニ）繁殖、茎の病気
- ・若い葉が乾燥状態  
室内乾燥高温、冷氣又は熱風に当たった、鉢土の水不足
- ・葉先の褐変、下葉から落葉  
根腐れ（肥料焼け、水過剰）、根づまり（植替時期の遅れ）、葉の新旧交替
- ・葉が萎れる  
根に障害、枝や茎の病気（ナンブ病等）、鉢土の水不足
- ・葉に斑点、斑紋  
病害（黒班病・灰色かび病・ウドンコ病等）、日焼け
- ・葉の表面がベトつく、葉が巻き込む  
害虫（カイガラムシ、アブラムシ、オンシツコナジラミ）

## ◎ 花の異常

- ・花に褐色斑点  
病害（灰色かび病）～ 過湿（かかった水が長時間乾かないような時）
- ・花の色が淡い  
光線不足…………… 2重3重のガラス越しでは止むを得ない場合が多い
- ・花（蕾）がつかない  
枝・茎が間伸びしている、休眠期間の不足、肥料の効きすぎ
- ・蕾が落ちる、開かない  
室内環境の激変（過乾燥、高温、低温）、病害（灰色かび病）、株の生育不良

## ◎ 枝・茎の異常

- ・間伸び（徒長）する  
光線不足、夜の温度が高い（昼夜の温度差は5～10℃に）、水過剰
- ・生長が遅く背丈がつまり気味  
温度不足、水不足、

## 十二月の園芸作業

- \* 露地・花壇・・・テランセラなど室内で冬越し中の花壇の材料の親株は乾燥と光線不足に注意。
- \* 鉢花・・・シクラメン、ポインセチアなどが出回ります。室内の環境によく馴らして、出来るだけ涼しく管理すると花が長持ちします。日長が短くなり、陽光も弱い季節です。ハイビスカス、ブーゲンビリアなど熱帯性の花木はよく光に当てること。全般に水やりは午前中に鉢の中が乾いてから十分に与えます。鉢の表面は乾いても中が濡れているのが冬の室内の鉢物の特徴なので注意が必要です。椿などの温帯性の花木も希望する開花時期にあわせて出来るだけ涼しく保ちながら管理します。クンシランはこれからの時期、十分な低温に合うことが来春花を咲かせる条件になります。正月用のウメの鉢物も玄関先のような涼しい環境から徐々に部屋の中へ入れて、丈夫な花を咲かせるようにします。
- \* 観葉植物・・・室内の高温、乾燥が大敵です。できれば涼しい温度で冬休みをさせること。日光不足、風通しの悪さ、部屋の高温等でカイガラムシ、ハダニ、オンシツコナジラミなどの発生が見られます。ブラシで擦り落としたり薬剤を散布します。鉢に置く薬も効果的です。暖かい日中には頭からざっぶりと水をかけてやるのも良い方法です。
- \* 洋蘭・・・早咲きの大型シンビジューム、カトレア等が咲き始めます。いずれも室温が高いと花もちが悪くなります。カトレアは23～10℃、シンビジュームは20～5℃、ファレノプシスは25～13℃、デンドロビュームは22～8℃、パフィオペデルムは22～10℃位で管理をします。新しいバルブが伸びてきている鉢には肥料を与えますが、休眠中の株には肥料やりは禁物です。花の咲いている鉢は水やりを少し多めに、休眠中の鉢は乾かし気味にします。
- \* 盆栽・・・冬眠中ですが時期的にお正月の飾りに盆栽が使われることがあります。特に梅の鉢物を含めてマツも縁起物として床の間や玄関先に置かれますが、出来るだけ低い温度で管理します。花を咲かせたいウメ、ボケ、ツツジ等の盆栽は、月初めには室から出して7日から10日の間隔で徐々に暖かい室温に馴らし、光線を十分に当てて管理します。蕾の発育に従って灌水の量を多くしていきます。乾燥した空気のもとで蕾が乾燥してしまいます。時々、シリンジをして湿度を補給します。ムロの中などの盆栽は二週間に一度位は見回りをし、鉢内の乾きに注意します。
- \* 庭木・果樹・・・特にありませんが、雪折れ等に注意します。

## 一月の園芸作業

- \* 露地・花壇・・・カタログと首引き、新しい種類やお目当ての花選びに専念します。鉛筆と紙の上での花壇作りもいいでしょう。
- \* 鉢花・・・12月に準じて管理します。今月の要点は、
  - ・ 最低温度を花の種類に合わせること
  - ・ 最高温度を低めに抑えること(20～23℃位)
  - ・ 日中と夜間の温度差は10℃位にすること
  - ・ 日光に出来るだけよく当てること
  - ・ 部屋の湿度に馴れさせると同時に部屋の湿度を可能な限り高く保つこと暖房の効き過ぎで部屋の温度が異常に高くなると、相対的に湿度も下がり植物は弱ります。日光量も一番少ない季節ですので植物は徒長しがちになり、徒長するとは花が咲かない原因になります。植物の徒長は日光不足と高温、さらに水やりが多いと進みます。熱帯性の花木は特に気をつけましょう。クンシランは低温での管理を続けます。
- \* 観葉植物・・・鉢花に準じて管理します。
- \* 洋蘭・・・冬咲きの種類や品種は新芽を伸ばし、葉を広げて蕾が額をのぞかせてきます。この時期は温度管理が大切なポイントになります。一般に、
  - ・ 高い温度で花梗(花茎)が伸び、開花後は低めの温度で花持ちが良くなります。開花中の株は最高温度を出来るだけ低く(22～13℃)、最低温度を適切に(5～12℃)に保つことです。シンビジュームは蕾に当たる光が多いと花の色が濁ります。
- \* 盆栽・・・正月の鑑賞用の鉢は、1日に2～3回は霧水をかけるようにします。出来るだけ低い温度の所で鑑賞します。花の咲いているウメなども寒いぐらいの所がよいでしょう。鑑賞期間が長くなると根や芽が動き出すので注意が必要です。花の咲いた物は満開になったら花を摘み取り早く冬囲いに戻すことで、新芽の伸びるのを防ぎます。ムロの中の鉢は乾きに注意。
- \* 庭木・果樹・・・大雪の時は枝に積もった雪落とし。